

まちづくり



と思っている。

地域も夢と希望を持って、まちづくり協議会が機能していけば、こんなすばらしい地域になるんだ、そのために我々は努力しましょうということになってもらいたいと思うし、職員も将来へ向かって自分たちが努力すれば、こんなすばらしい笠岡が築けるんだというような使命感をしっかりと持ってやっていくことが極めて大切であると思っている。

来年度の組織機構改革について

議員 4月1日付で行うとしている危機管理部門の設

置についてたずねる。

危機管理は重要な課題ではあるが、どのような理由で危機管理部、危機管理課という1部1課の設置を行うおうとしているのか。

市長 東日本大震災の教訓を受け、災害対策はもとより、国民保護、その他の危機管理に関して一元的に管理し、なおかつ市役所の組織を迅速かつ的確な機動力を持って動かすためには、部を超えた横断的な危機に対応するための部署が必要であると考え、危機管理部を設置する。住民にとってわかりやすい組織が大切であると考え、危機管理に特化した危機管理課からなる1部1課とした。

森岡聰子議員

「備後圏域連携協議会」設立について

議員 県境を越えた6市2町からなる「備後圏域連携協議会」が設立され、福山

市が整備する「こども発達支援センター」を共同運営することを合意し、その他、協議会で取り組むテーマとして、医療・観光など6分野を掲げている。

今後の本市での取り組みについてたずねる。

市長 県境・市境はあっても、備後圏域内においては、日常生活の結びつきは緊密である。その認識のもと、圏域全体として発展していくために、昨年12月に設立

した。具体的な取り組みについては、今後、研究部会で検討していくが、観光情報の提供等、既に具体的な事業として実施しているものもある。圏域の中で本市の役割を明確にしていく必要があると考えている。

議員 市長は何を具体的に期待するのか。

市長 私の頭の中にあっただのは医療の問題である。県境がある中で困難だったが、住民のつながり、そして時間的・地理的な条件等を考

えると、福山の医療圏を核にした医療の充実は極めて大切であると思っている。

弱者支援策について

議員 本市には、視覚障害者のために、録音図書作成に携わっている福祉ボランティア団体がある。しかし、図書テープを作成する際、著作権の問題が生じ、大変苦労されている。

解決策として、市立図書館は、どのような支援策があると考えているのか。

教育長 従来、著作物の複製を行うためには著作権の許諾が必要だが、平成22年に施行された著作権法の一部改正により、障害者の情報利用の機会を確保するために、著作物利用に係る権利制限の範囲が拡大され、権利者の許諾を得ずに著作物の複製等が公立図書館で可能となった。しかし、笠岡市立図書館はそれに該当できていない。そこで、それに該当するよう検討して

いくと同時に、地域福祉課と連絡調整して適切な対応ができるよう検討していきたいと考えている。

子育て環境の整備について

議員 女性の参画を進め、少子化に伴う幼児教育の充実と共働き家庭のニーズに応えるために、子どもを安心して産み育てる環境は欠かせない。井原市では本年4月から、教育時間外の預かり保育を新たに2園が始め、3園での取り組みとなる。本市の考えをたずねる。

教育長 預かり保育については、今後の検討課題にしたいと考えている。

